

2021年11月吉日

ミサワホーム株式会社 代表取締役 磯貝 匡志 様

特定非営利活動法人 グラウンドワーク三島  
理事長 小松 幸子

### 三島駅南口東街区再開発事業について「市民との意見交換会」開催のお願い

秋の装いが進み、冬の足音も感じられようになりましたが、いかがお過ごしでしょうか。

さて、「グラウンドワーク三島（GW 三島）」は、市民・NPO・行政・企業とのパートナーシップにより、環境悪化が進行した「水の都・三島」の原風景・原自然の再生・復活に、29年間にわたり取り組んでまいりました。

その結果、ゴミが捨てられ汚れていた源兵衛川には、ホタルが飛び交い、水中花・三島梅花藻が咲き乱れる、誰もが感動する魅力的な水辺環境が蘇りました。2016年11月には「世界かんがい施設遺産」に、2018年1月には「世界水遺産」に登録され、三島の宝が世界の宝にブラッシュアップしました。夏には、昔のように、多くの子どもたちが川遊びに興ずる姿が見られ、年間720万人もの観光交流客が訪れる回遊性の高い「水の都・三島」が再生・復活しました。

この水と緑を活かした街づくりの成果・評価は、何事にも、多様な利害者が寄り添い、数多くの議論を蓄積していく「三島型・市民総意」の事業推進のスタイルがベースになっています。GW 三島の役割は、利害者の調整・仲介役であり、共存共栄のウインウインの関係構築を実現し、行政や企業の思惑や利害だけに偏らない、中立的で専門性の高い、市民総意の中庸的な計画案を提案・実現することにあります。

現在までに、民間企業のマンション建設で改変の危機が迫った旧三島測候所や三島梅花藻の里の水源地、養鱒所跡地の宅地開発など、民間企業が買収済みの土地を、三島市長と議会の理解を得て、市による買戻しを実現し、マンション建設や宅地開発の撤退・中止を成し遂げて来ました。これは、GW 三島が集めた1万人以上の署名活動の間接的な影響力が、市長と議会の意向を変えさせ、施策の変更・中止を導き、地域課題を解決してきたものです。

しかし、今回の三島駅南口東街区再開発事業については「源兵衛川親水公園  
化事業」や「街中がせせらぎ事業」で行われてきた、市民との徹底的な議論と  
情報公開の積み重ねによる「三島型・市民総意」の事業スタイルとは大きく異  
なり、三島市や準備組合、事業協力者が、市民との数多くの議論や意見交換会  
を開催せず、詳細な事業内容の情報公開がまったく不十分なまま、一方的に、  
事業が進められてきているものと思われます。

具体的には、事業協力者代表企業であるミサワホーム株式会社様から、多く  
の市民やGW三島などの環境まちづくり団体に対して、事業内容の説明は、今  
までまったく実施されておらず、三島市や市街地再開発準備組合のみとの間で  
のやり取りに限定されており、「情報閉鎖」の状態だと判断・認識しています。

しかし、先般、御社は、三島商工会議所の幹部やまちづくり委員会に対して、  
事業内容の説明を行いました。市民に対して詳細に説明するのが先決・優先さ  
れるべきはありませんか。どんな意図で実施されたのか理解できません。市民  
軽視の表れではないでしょうか。

現在、国内外においてSDGsの重要性が叫ばれる中、的確な情報公開と地域  
の信頼性構築に対して、企業としての社会的責任を果たしておらず、市民無視・  
軽視の企業姿勢だとの評価や不信感、批判が市民に浸透・拡大しております。

本来、住宅メーカーとして、市民は大切なお客様なのに、そのお客様が抱え  
る不安や疑問に対して、誠心誠意、寄り添う真摯な姿勢がまったく見られず、  
企業としての傲慢な姿勢であり、市民を「下位」に見ていらっしゃるのでは  
うか。

特に、高層マンション・商業施設・駐車場などの建設に関わり、①「工事費  
の増加による過大な市民負担、②命の水である地下水の消滅、③伊豆半島ジオ  
パーク三島ジオサイトの貴重な溶岩層の破壊と登録抹消の懸念、④富士山の眺  
望阻害、⑤駅南への集客集中化による中心商店街の衰退、⑥慢性的な交通渋滞、  
⑦ビル風被害、⑧日照問題、⑨想定される南海トラフ地震等の巨大地震被害、  
⑩工事中の公害問題」など、コロナ後の経済動向を踏まえても、三島市への現  
実的な経済効果やメリットについては、問題点や不安ばかりが懸念され、事業  
者としての説明責任を十分に果たしておらず、その企業姿勢は認知すること  
はできません。

川勝静岡県知事は、今までの知事定例記者会見において、何回も、今回の三島駅南口東街区再開発事業による高層マンションや商業施設の建設については「容認できず、反対である。三島市や事業者は、今後ともますます市民との十分な議論・意見交換を行い不安を解消すべきだ。地下水や水辺環境の保全をまずは優先すべきだ」との意向を明確に表明しています。

今後の本再開発事業の法律的な手続きにおいては、静岡県の理解が必要不可欠であり、川勝知事の理解なくして事業の円滑な推進は望めません。今までの川勝知事からの反対の意向表明は、このような大規模事業を急ぐ、豊岡市長に対しての強い「抑止」「反対」のメッセージだと考えています。

今後、GW 三島は、本再開発事業による地下水や水辺環境に与える悪影響を踏まえ、建築・地質・水循環・生態系の専門家からの問題点の指摘・提案を、まとめた「意見書」を、豊岡三島市長と川勝静岡県知事等に提出します。

さらに、三島市民の賛同の輪を拡大して、命の水の地下水とホテル舞う水辺環境を守るための全国的な市民運動を、報道機関や著名人との連携を含め、懸命に展開していきます。

今後、ミサワホーム株式会社 代表取締役 磯貝匡志様におかれましては、三島駅南口東街区再開発事業について「市民との意見交換会」をできるだけ数多く、開催していただくように、強く、お願い申し上げます。

つきましては、御社の窓口となる担当者を決めていただき、本会の担当者である渡辺か、美和に対して、電話かメールで、ご連絡をいただきますようお願い申し上げます。ご連絡をお待ちしております。

なお、今回のお願いにつきましては、多様な関係者を含め、県内や全国規模の報道機関に広く告知していきますので、ご承知おきください。

**【連絡・問い合わせ先】**

特定非営利活動法人 グラウンドワーク三島  
担当者:渡辺豊博（専務理事）・美和将弘（事務局）  
住所:〒411-0857 静岡県三島市芝本町 6-2  
電話:055-983-0136 FAX:055-983-0136  
E-mail:info@gwmishima.jp